

校長室より

第20号

「天空高き」



平成23年5月10日

本気で！

平成23年度がスタートして1ヶ月が経過しました。新入生の皆さんは本学園の生活に慣れ、楽しく毎日を送っていますか。

私は毎日校門に立って生徒の皆さんからは「おはようございます」と明るい挨拶を返してもらい、元気をもらっています。

生徒の皆さんには「明るく、元気に、楽しくやろう！」をモットーに、一人ひとりの夢や目標に志をもって勉学に、部活動に全力投球してもらいたいと思っています。そのためには、基礎学力と人間性を本校で身に付けてください。毎日の小さな積み重ねが大切です。皆さんの本気が自分を変え、学校を変え、世界を変えます。

今回は坂村真民先生の「本気」という詩を皆さんに送ります。

東日本大震災復興チャリティーコンサート

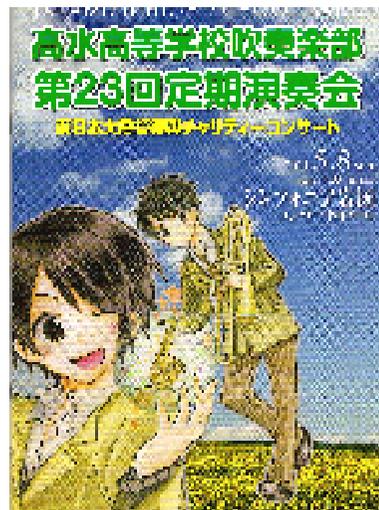
若葉が目にも鮮やかな季節になりました。この時期は生命の躍動感にあふれ、私がとても大好きな季節です。

五月晴れに恵まれた5月8日、岩国シンフォニアで本校吹奏楽部の第23回演奏会が催されました。定期演奏会ではありませんでしたが、部員一同の発案で被災された方々に元気を送るという目的の「東日本大震災復興チャリティーコンサート」となり、多くの来場者を迎え、あっという間の2時間でした。

吹奏楽部員、OBや関係者の方々の趣向を凝らしたコンサートで、本当に楽しい一時を過ごさせていただきました。

彼らの熱い思いは元気と勇気になって、きっと被災された方々に届いたと思います。

また、彼らのTシャツの裏にかかれた熱いメッセージ「一人ひとりができることは小さくても、それが大きな力になると信じている」は、当日来場した我々にも元気と勇気と大きな感動をプレゼントしてくれましたと同時に、図書館横の『一滴の碑』が思い起こされました。「一滴の水が大海を潤すように、彼ら一人ひとりの小さな力がやがては大きな力となり、東日本いや日本の復興への大きな力となる」と確信しました。



音楽は我々が日常生活において、食べたり寝たりすることと同じように、生活の大切な一部になっていることを実感しました。

来年は24回目の定期演奏会になります。まだ一度も足を運んでいない人も是非一緒に彼らの演奏会を楽しんでもらいたいと思いました。

最後に、30年の長きにわたり吹奏楽部の発展に寄与していただいた顧問の福本卓雄先生には、感謝と御礼を申し上げます。

たいと思います。そして、新顧問の赤川優子先生には若さと情熱で音楽のもつ素晴らしさをご指導していただきたいと思いました。

1909年(明治42年)熊本県荒尾市出身。本名昂(たかし)。2006年(平成18年)永眠。享年97才。昭和6年、神宮皇学館(現皇学館大学)を卒業。25歳の時、教職につき、昭和21年から愛媛県で高校の国語教師を勤め、65歳で退職、以後詩作に専念する。

『本気』坂村真民
本気になると
世界が変わってくる
自分が変わってくる
変わってこなかったら
まだ本気になってない証拠だ
本気な恋
本気な仕事
ああ
人間度
こいつを
つかまんとには

さわやかな新緑が目にもまぶしい季節を迎えましたが、来週からはよいよ中間考査が始まります。体調を整え、日頃の成果を発揮してください。

今月の月間目標
付中 「気持ちを改める」 高校 「時を守り 場を清め 礼を正す」
今週の目標
付中 「中間考査に向けて勉強する」 高校 「テストに向けて気合いを入れる」

高水高等学校・同附属中学校 校長 前田 茂雄

倒れなかった者が強いんじゃなくて、
倒れても立ち上がれる者が本当に強いんだよ。喜多川 泰